梅若研能会
創立百周年記念 橘香会

道成寺

梅若志長



令和八年 十月十一日(日)
於・国立能楽堂
十四時開演（十三時開場）

舞囃子 乱 双之舞
狂言 舟渡聟
仕舞 砧 花筐 狂
能 山姥 キリ 道成寺

梅若紀佳
梅若紀長
野村万作
観世銕之丞
観世清和
梅若紀彰
梅若志長

文化庁

文化庁文化芸術振興費補助金
（舞台芸術等総合支援事業（公演創造活動））
独立行政法人日本芸術文化振興会



梅若志長（うめわかゆきなが）

平成十二年（２０００年）生まれ。
祖父三世梅若万三郎および父梅若紀長に師事。
平成二十二年『合浦』にて初シテ。
これまでに『石橋』『乱』『翁』を披く。東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。（公財）梅若研能会理事



狂言 **「舟渡聟」**（ふなわたしむこ）

京都から初めて妻の実家に挨拶に行く聟が、びわ湖にさしかかり大津松本で渡し舟に乗る。酒好きの船頭は、聟の持つ酒樽に目をつけ振舞うよう迫るが、断られると、舟を漕ぐのをやめたり、激しく揺らしたりして強引に無心する。聟は仕方なく酒を飲ませ、軽くなった酒樽を持って舅宅へ出向く。やがて外出していた舅が帰宅するが、舅は聟の顔を見てびっくり仰天。舅こそが先ほどの船頭だったのだ。舅は様を変え、顔を隠して対面するのだが…。舟に乗っている様子が棹一本で表現されるなど、狂言のマイム的な表現技法も見どころの曲です。舅と聟の掛け合いの妙をお楽しみ下さい。

能 **「道成寺」**（どうじょうじ）

長らく鐘が失われていた紀伊国（現在の和歌山県）の道成寺。釣鐘の再興にあたり女人禁制で催される鐘供養の場にやって来る一人の白拍子。白拍子の舞みたさに僧に仕える男が禁を破り立ち入りを許すと烏帽子をまとった白拍子は、乱拍子を踏み舞を舞うと鐘の中に入ってしまう。ただならぬ地響きに驚いた男が鐘が落ちた事を僧に告げると、昔、山伏に恋をした娘がいて、山伏はこの寺に逃げ込み鐘の中に隠れたが、後を追ってきた娘は大蛇となり日高川を渡り、鐘に巻きついて山伏を鐘ごと溶かしてしまった、という話を物語る。そして先刻の白拍子は娘の怨霊であろうと読経を行うと鐘が上がり、蛇体の鬼女が現れるが、仏力により自らの炎に身を焦がした大蛇は日高川の深淵にその身を沈める。

橘香会
入場券
購入者無料

能舞台で演者が演目を
解説いたします！

橘香会 みどころ講座

9月27日(日) 13:00－14:00（開場 12:45）

於：梅若万三郎家能舞台 渋谷区西原 1-4-2
講　師：梅若志長
受講料：1,000 円（橘香会入場券購入者無料）

お申し込み先着 50 名様　03(3466)3041

https://eplus.jp/ath/word/69495 イープラス

イープラス

お問合せ・お申込み

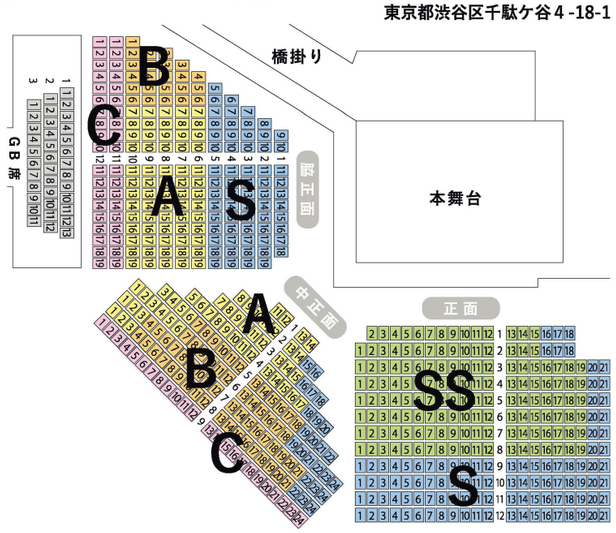
主催：公益財団法人 梅若研能会

03(3466)3041 staff@umewakakennohkai.com

チケット予約受付中

国立能楽堂 座席表

東京都渋谷区千駄ケ谷４-18-1



橘香会入場料

学生席 各席 3,000 円引き（要学生証）

指定席 SS	14,000円	指定席 B	8,500円
指定席 S	12,500円	指定席 C	7,000円
指定席 A	10,000円	指定席 GB	5,500円

梅若研能会
百周年記念

橘香会

令和八年十月十一日(日)　十四時開演
於・国立能楽堂　十三時開場

連吟　**四海波**

梅若万佐志
加野　鉄音
梅若千音世
萩原　郁也
中村　政裕
青木　健一
古室　知也

梅若　泰志
八田　達弥
伊藤　嘉章
青木　一郎
中村　裕
遠田　修
加藤　眞悟
長谷川晴彦

舞囃子　**乱**　双之舞

梅若　紀佳
梅若　紀長

大鼓　柿原　弘和
小鼓　大倉伶士郎
笛　一噌　隆之
太鼓　大川　典良

地謡　中村　政裕
遠田　修

加藤　眞悟
中村　裕
伊藤　嘉章

（十四時三十分頃）

狂言　**舟渡聟**

船頭・舅　野村　万作

聟　内藤　連
姑　野村　萬斎

後見　石田　淡朗

（十五時五分頃）

仕舞　**花筐**　狂
仕舞　**砧**
仕舞　**山姥**　キリ

観世銕之丞
観世　清和
梅若　紀彰

地謡　青木　健一
伊藤　嘉章
藤波　重彦
青木　一郎
八田　達弥

（休憩二十分）

（十五時四十分頃）

能　**道成寺**　白拍子　蛇體

梅若　志長

従僧　村瀬　慧
道成寺住僧　福王　和幸
従僧　矢野　昌平
能力　野村　裕基
能力　飯田　豪

大鼓　亀井　広忠
小鼓　幸　正昭
笛　栗林　祐輔
太鼓　林　雄一郎

地謡　萩原　郁也
梅若　紀佳
青木　健一
八田　達弥

後見　梅若　泰志
観世　清和
坂口　貴信

伊藤　嘉章
梅若　紀彰
観世銕之丞
藤波　重彦

鐘後見　梅若　紀長
加藤　眞悟

長谷川晴彦
古室　知也

梅若　雅一

狂言後見　中村　修一
内藤　連

石田　淡朗
金澤　桂舟

十七時二十分終了予定



ご挨拶

昭和初期に創設された梅若研能会は、
おかげをもちまして
間もなく百年を迎えます。
その節目として、
能楽師の登竜門にして秘曲の「道成寺」を
三世梅若万三郎の嫡孫・梅若志長が
披演いたします。
百年の歴史を礎に、次代へ向けた
新たな一歩を刻んでまいります。

公益財団法人　梅若研能会